

目次

目次

序		亀井源太郎	v
---	-------	-------	---

憲法前文と民主主義			
——五・一八精神の憲法前文への収録の当為性——		関 炳老	一

主権論の歴史的展開と憲法制定権力論による「脱魔力化」			
——G・ローソンとJ・ロックの所説を中心に——		青柳卓弥	三

「生き、そして生かす」			
——ゲーテの『エグモント』と『扇動された人々』における			
自由の概念と「良き古き法」——		橘 宏亮	六

性風俗産業と職業差別

——最高裁令和七年六月一六日判決を素材として——

新井 誠……………八五

操作と言論

——AIによる「言論」の憲法的価値をめぐる序論的考察——

山本 龍彦……………一〇九

情報空間への国家介入の見取り図

——DPF規制に向けた放送規制の根拠論とその応用可能性——

山本 健人……………一三七

台湾における大学の自治の近時の動向

——憲法裁判所「二〇二二年第一一号判決を手掛かりとして——

李 仁 淼……………一六九

大学研究者の任期付雇用の憲法問題

——ドイツ連邦憲法裁判所の判決を素材として——

栗 島 智 明……………二〇七

韓国における科学技術振興義務と憲法第一二七条改正論……………

松 田 侑 奈……………二四九

二二年越しの間 ——生活保護基準引下げに関する司法審査——	伊藤 建	二七五
生存権の諸要請 ——「いのちのとりで裁判」最高裁判決の意義と射程——	石塚壮太郎	三〇五
一事不再理原則と実体的正義	玉蟲由樹	三五
「記憶の法 (Memory Laws)」の展開と課題	小谷 順子	三五九
立法者の事後的是正義の意義と展開	入井凡乃	三六一
立憲主義下の自律権 ——大統領の排他的権限の意味——	大林啓吾	四〇五
大統領権限と単一執行府論をめぐる予備的考察	小林祐紀	四四一

中国行政法の基本構造に関する観察……………	王 貴松……………	四六七
憲法の番人は誰か —— 中華民国創立期の政治裁判所思想とその後 —— ……	牟 憲魁……………	四六七
コンコルダート判決におけるライプホルツとスメント —— 一九五七年三月二六日ドイツ連邦憲法裁判所第二法廷判決 —— ……	三宅 雄彦……………	五一九
企業課税における法人税の位相 —— ドイツ租税法に見る法人課税の意味論に係る一試論 —— ……	手塚 貴大……………	五五三
ラント財政における財政均衡・起債制限の憲法規律 ……	上代 庸平……………	五七七
優生保護法国家賠償請求訴訟について —— 尊厳獲得に向けた協働作業と最高裁判決が残したもの —— ……	関 哉 直 人……………	六〇九
DNA 型等抹消請求認容判決に小山意見書が与えた影響 ……	塚 田 聡 子……………	六三七

刑事裁判における、法学研究者の意見の取り扱いについて

——大阪タトゥー裁判を振り返りながら——

川上博之

六五五

小山剛教授略歴・主要業績

.....

六七九